



モバイルパブリック賞

山形県デジタルコンテンツ協議会

広域フリーWi-Fi環境

Profile

山形県デジタルコンテンツ協議会
事業内容：デジタルコンテンツ制作などを通じた地域経済活性化
URL：https://www.archive.gr.jp/

既設のフリーWi-Fi設備へスマホアプリで自動接続

DATA

活用領域・解決する課題

- ・誘客促進のためのフリーWi-Fiサービス提供
- ・GPSによる旅行者のトラッキングデータ収集・分析

テクノロジー・デバイスキーワード

スマホアプリ、Wi-Fi、GPS・位置情報連動コンテンツ

観光客が求めるフリーWi-Fiをいかに使いやすく提供して来訪者を増やすか——産学官金が連携して設立された山形県デジタルコンテンツ協議会は、自治体や民間企業が個々に整備したWi-Fiスポットに無料のスマホアプリから自動接続するサービス「Wi-Fi YAMAGATA」を開発。2016年10月から提供を開始した。

事務局を務めるデジコンキューブの取締役システム開発部部长 長橋陽介氏は、「コストや手間を極力かけずにエリアを整備・拡大する手立てを検討する中で、アプリを使ったWi-Fi接続に着目しました」と話す。

一元化したAPリストをアプリで参照 GPSで利用者の行動履歴も収集

「Wi-Fi YAMAGATA」は、フリーWi-Fiの利用時に必要な接続アクセスポイント(AP)のSSIDとパスワード

(PW)をセンター側のデータベースに登録して一元管理。そのデータをアプリが参照し、利用可能なAPに自動で接続する仕組みである。

利用者はアプリをインストールし、メールアドレスまたはSNS連携で個人認証を行えば、登録されたWi-FiエリアではPWを入力せず、ネットに接続できる。

アプリ上では、Webサイト「Trip Yamagata Japan」と連動したコンテンツが提供されるほか、GPS機能を使って訪問場所の観光情報やクーポンのプッシュ配信も受けられる。

さらにGPSを用いて利用者のトラッキングデータをアプリ経由で収集・分析し提供している。

「人がどう移動しどこに集まるかが明確にわかるので、観光サービスやインバウンド施策を考える材料として活用できます」と長橋氏は説明する。



協議会の事務局を務めるデジコンキューブの取締役・システム開発部部长 長橋陽介氏



「Wi-Fi YAMAGATA」の画面例。日本語のほか英語、中国語(簡・繁)、韓国語にも対応する

県外自治体との広域連携を構想 住民向けへの領域拡大も

「Wi-Fi YAMAGATA」は、蔵王を手始めに山寺、最上川舟下り、天童市街地、新庄などに対象エリアを拡大。県が「推奨活動」に認定した後押しもあって参加する自治体・民間企業も大きく増えている。アプリへのコンテンツ掲載や情報配信を行う提携店舗も1200近くに達している。

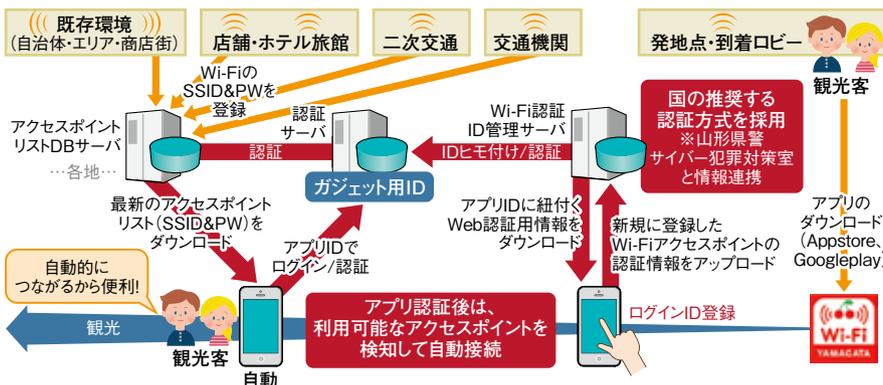
アプリのダウンロード数は2018年末で1万超。利用者のトラッキングデータ件数も100万を突破している。

長橋氏は、「Wi-Fiスポット登録やコンテンツ掲載で提携する自治体・企業側にもメリットがあるサービスなので、相乗効果で対象エリア、利用者数をさらに拡大したい」と語る。

東北エリア、国内他地域への展開も構想にある。宮城県仙台市との連携が決まっており、他の自治体からも問い合わせが来ているという。

意外にも県内在住者のアプリ利用が多く、Wi-Fiスポット登録に県内公共施設も少なくないため、住民を対象としたサービスへと領域を広げていくことも視野に入っている。

図 「Wi-Fi YAMAGATA」のシステム概要



ユーザー部門

ソリューション部門